

Ⅳ 研究の成果と課題

1 成果

手立て1 つながりや関わりを豊かに創り出す子どもを育む条件を備えた地域素材の教材化

今年度は新型コロナウイルス感染症防止対策のため、「ひと・もの・こと」とのつながりや関わりを重視する学習活動が困難であった。その中でも、新型コロナウイルス感染症防止対策を行いながら各学年の工夫された学習活動が、子どもの食への関心を高め、健康的な食生活をめざす力が育まれたと考える。

1年生では、単元の終末において学校でサツマイモを調理し、「おいもパーティー」ができなかったため、収穫したサツマイモを家庭に持ち帰り、家庭への協力をお願いした。子どもは家庭で調理したものを写真や絵などを使って、紹介し合うなど、自分のサツマイモに愛着や親しみをもって関わる事ができた。

3年生では、大葉春菊の生産者との出会いを計画していたが、実際に会うことはできなかった。そのため担任から、子どもの質問を生産者に伝え、答えてもらう形で交流を行った。またその様子をVTRに収め、子どもに見せることで、大葉春菊の生産者である岡村さんへの思いが膨らみ、関心を高める事ができた。



4年生 地域の方とのオンライン授業の様子

4年生では猿喰新田ブランドに関わる地域の3人の方とオンライン授業を行った。猿喰新田ブランドの商品を作る思いや願いを聞くことで、3人の思いや願いをリアルタイムで受け止め、その思いを引継ぎ、子どもは自分達で何ができるのかを考える事ができた。

手立て2 地域の「ひと・もの・こと」とのつながりや関わりを大切にした学習過程の工夫

学習過程では「である」⇒「さぐる」⇒「ふりかえる」活動を、単元の中で繰り返し設定することで、生活科の学習を通して、子どもが冬野菜に愛情や親しみをもち、食生活を豊かにしていこうとする姿が見られた。

2年生「大きくなあれ わたしのやさしいⅡ」では地域の「ふれあい農園」で収穫したさつまいもに出会い、自分も冬野菜を育ててみたいという思いを高める事ができた。そこで地域の方にGTとして冬野菜の育て方を教えてもらったり、インタビューをしたり、本で調べたりして課題解決を図った。冬野菜の良さを実感し、日頃の自分自身の食生活を振り返るとともに、食生活をよりよくしたいという意欲をもつ事ができた。



2年生 「ふれあい農園」でのいもほりの様子

総合的な学習の時間では、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」と

いう探究のプロセスをスパイラルに連続していくことで、健康的な食生活の在り方について課題意識を持ち、自分たちに何ができるか課題解決しながら実践することができた。

5年生「米プロジェクト～米の未来を考えよう～」の「課題の設定」の場面では、社会科で学習した日本の食糧生産の自給率について、もう一度考えることで新たな課題意識をもつことができた。「情報の収集」場面では、米について調べることで、米の消費率や日本の食文化の変化に気付くことができた。「整理・分析」「まとめ・表現」の場面では、米の生産や消費についての様々な課題を整理・分析し、今の自分たちにできることを話し合った。それを他学年や家庭で紹介するなど実践することができた。

学校再開が5月になったため、栽培活動などの遅れが出た。その度に、各学年の生活科・総合的な学習の時間の「松北カリキュラムプラン」を見直し、修正や付け加えを行った。そのため、一層各学年の子どもの実態に合った食に関する指導ができたと考える。

当初<第4学年の総合的な学習の時間の松北カリキュラムプラン>

総合的な学習の時間の年間指導計画(4年)												
主体的な学習の目標	◎ つながりやかかわりを豊かに創り出す子どもの育成。 ～ やる気・本気・根気を引き出す生活科・総合的な学習の時間の授業づくりを通して～。											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
単元名・時期	食育 春野菜を育てよう①②		食育 夏野菜を育てよう③ トマト・ナス・オクラ・キュウリ等		食育 冬野菜を育てよう④ 香葱・大根		遠慮新田Ⅰ◎ 地域・食育 伝える思いや願い大作戦！！Ⅰ ★ 甘酒作りに挑戦 ★ マドレーヌ作りに挑戦		遠慮新田Ⅱ 地域・食育 伝える思いや願い大作戦！！Ⅱ ～動画づくりに挑戦～⑤			
ねらい・目標	・地域の方と一緒に野菜をつくる活動を通して、地域の方の楽しさを感じたり、和暦や枝のすきさに気づいたりすることができる。 ・自分たちで栽培して食べる活動を通して植物に親しみや愛情をもち、生命の大切さを実感することができる。				・地域の一員として、これからは遠慮新田や地域を大切にしたいという思いをもつことができるようになる。 ・甘酒や甘酒マドレーヌを作る活動を通して、地域地産のすばらしさに気付くとともにシビックプライドの醸成を図る。(遠慮新田の米・甘酒を使ったお菓子) ・学習を振り返る中で自分自身の成長に気付く、達成感や自信をもつと共に社会参画への意欲へとつなげていく。							
出会う方・CT	地域の方「畑の先生」 ふれあい農園				奥村さん 田村さん マドレーヌ見学・体験 石原さん							

変更したく第4学年の総合的な学習の時間の松北カリキュラムプラン

総合的な学習の時間の年間指導計画(4年)												
主体的な学習の目標	◎ つながりやかかわりを豊かに創り出す子どもの育成。 ～ やる気・本気・根気を引き出す生活科・総合的な学習の時間の授業づくりを通して～。											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
単元名・時期			食育 冬野菜を育てよう④ 香葱・大根		◎ 地域・食育 伝えよう遠慮新田物語 ～わたしたちは遠慮新田守り隊～		地域・食育 伝えよう遠慮新田物語 ～わたしたちは遠慮新田守り隊Ⅱ～					
ねらい・目標	・地域の方と一緒に野菜をつくる活動を通して、地域の方の楽しさを感じたり、和暦や枝のすきさに気づいたりすることができる。 ・自分たちで栽培して食べる活動を通して植物に親しみや愛情をもち、生命の大切さを実感することができる。				・地域の一員として、これからは遠慮新田や地域を大切にしたいという思いをもつことができるようになる。 ・学習を振り返る中で自分自身の成長に気付く、達成感や自信をもつと共に社会参画への意欲へとつなげていく。							
出会う方・CT	地域の方「畑の先生」 ふれあい農園				遠慮ブランド委員会 奥村さん 田村さん(甘酒・マドレーヌ) 佐藤・ZOOMでやりとり							

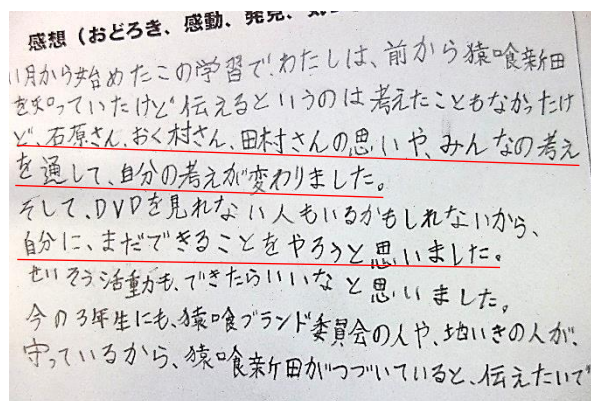
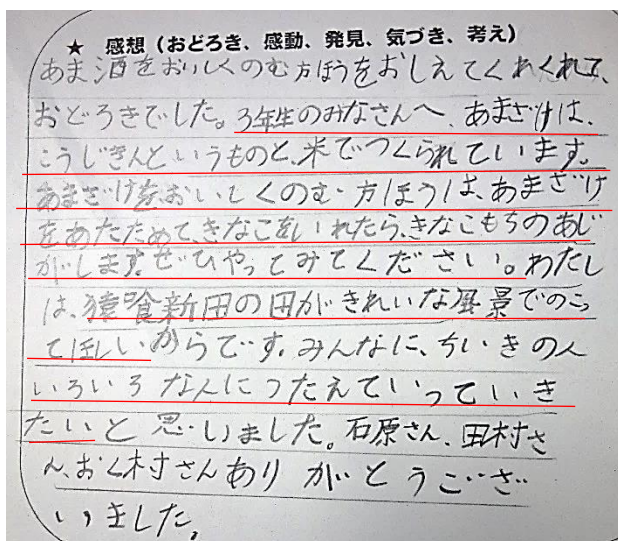
手立て3 気付きの質やものの見方、考え方を高め、学びの深まりを実感するための話し合い活動の工夫

4年生「猿喰新田のよさを伝えよう～われら猿喰新田伝え隊」では、課題を追究する場面において情報を整理した。その後、ウェビングマップを使って「猿喰新田」について知っていることを出し合い、情報を整理していった。他学年、地域の方、他校の4年生に「猿喰新田」についてのアンケート調査を行い、その結果を分析していった。また、自分の考えを深める場面では、「猿喰新田」



4年生 「猿喰新田」について発表する様子

「猿喰ブランド委員会」「甘酒や純米酒」の3つの課題別グループに分かれ、収集した情報をYチャートを使って整理、分析した。子どもは話し合い活動を重ねていくことで、「猿喰新田」や地域を誇りに思う気持ちを強めることができた。思考ツールを効果的に活用しながら、話し合い活動を充実させることで、子ども一人一人の気付きや猿喰新田に対する見方や考え方を深めることができた。



4年生 振り返りの場面の子どものワークシート

2 課題

手立て1 つながりや関わりを豊かに創り出す子どもを育む条件を備えた地域素材の教材化

食への関心を一層高め、健康的な食生活をめざす子どもを育てるためには、家庭や地域の協力は不可欠である。子どもが学校で学んだことを家庭や地域で生かし、貢献することで家庭や地域の方が価値付けをする。このように地域素材を教材化することは、つながりやかかわりを豊かに創り出す子どもを育むことにつながる。本校では、学習に関わる人材一覧表を作成し、活用している。今後の課題として、地域素材を教材化したものを、校区の「人材マップ」や「学びマップ」として作成することである。「人材マップ」や「学びマップ」を見れば、どの学年が何を学び、どのような「ひと・もの・こと」とつながりがあるかが、一目

で分かる。「松北カリキュラムプラン」が継続的・計画的に進められると考える。

手立て2地域の「ひと・もの・こと」とのつながりや関わりを大切にした単元構成の工夫

今年度はコロナ禍での生活科・総合的な学習の時間の年間計画を立て直した。そのため、栽培活動の時期や食材が変更されたり、収穫した食材を調理して試食したりすることができなかった。また、地域の方や食料生産に関わる方と直接に合い、交流することができなかった。そのため、子どもの意欲や関心を高める工夫に困難した。次年度は、地域の「ひと・もの・こと」をつなげていくためにも、生活科・総合的な学習の時間の年間計画の再構築が必要だと考える。

また、生活科・総合的な学習の時間は、他教科との関連が深い実践が多い。他教科と関連付けることにより、さらに深い学習展開が期待できる内容もある。また、生活科・総合的な学習の時間の評価基準を作成し、指導との一体化を図っていく必要がある。今後も、生活科・総合的な学習の時間の他教科との関連を明らかにしていきたい。

手立て3気付きの質やものの見方、考え方を高め、学びの深まりを実感するための話し合い活動の工夫

各学年の子どもの実態に合った思考ツールを活用し、話し合い活動に生かすことがまだできていないと考える。今後、様々な教科や学習場面で活用し、子ども自身が進んで思考ツールを選び、活用していく力を身に付けることが必要と考える。

振り返り活動では、学習したことを家庭や地域で生きているか、さらに学習を深めていく必要がある。そのことにより、学習が段階的・継続的に続いて行くことにより、ひいては生涯的な学びの姿勢が繋がっていくものと考ええる。

3 おわりに

生活科・総合的な学習の時間は、自立し生活を豊かにしていくこと、自己の生き方を探究することを目指す特質から、「生きる上での基本」といわれる食育の理念と深く関わりがあると考える。今回、この二つの教科と食育を関連させた研究により、これまで本校が取り組んできた内容をさらに深めることができた。特に6年生においてはその集大成として、家庭や地域とのつながりを深め、学びの深まりを実感し、自己の生活を見直し改善しようとする態度を育むことができた。今後は、各学年の発達段階に応じて、他教科との関連をより深め、給食の時間などの指導についてもさらに充実させながら、一人一人の子どもが進んで食への関心を高めるとともに、よりよい人生を創る力を身に付けられるよう取り組んでいきたい。